

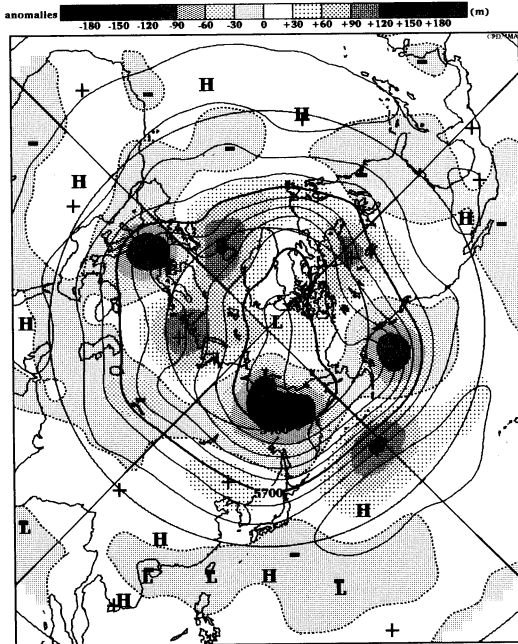
2001年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、北極海、カナダから大西洋北部、ロシア西部から西シベリア、モンゴルから中国、太平洋中部が正偏差に覆われ、反対に、ヨーロッパ、中央アジア、中央・東シベリア、アラスカ湾付近では負偏差となった。太平洋西部の亜熱帯高気圧の中心は平年に比べて北東側にあり、日本付近への張り出しは平年より弱かった。上・中旬にはユーラシア大陸上で明瞭なプラネタリー波の伝播がみられ、波列状の高度偏差がほぼ同じような位置に持続して分布した。東シベリア付近の負偏差と太平洋中部の正偏差はほぼ月を通して分布した。

対流活動は南シナ海からフィリピンの東海上にかけて平年よりも不活発な状態となり、その南北両側の領域で活発となった。北側の活発域は主に熱帯擾乱によるものであった。また、インド洋東部からインドシナ半島にかけては活発であった。また、アフリカ大陸のサヘル地域、メキシコからカリブ海、南米などでは対流活動が活発、太平洋の ITCZ (赤道収束帯) も活発となり平年に比べて北寄りであった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、大規



2001年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

模な発散域の中心はフィリピン付近にありほぼ平年の位置であった。中央アメリカ付近の発散域は平年に比べ西側に寄っていた。

SOI (南方振動指数) は+0.2 (暫定値) であった。

世界の天候

① 東シベリアの低温

② 南西諸島から台湾の多雨

台湾には中旬に台風第16号が上陸し、死者・行方不明約100人、被害額は2000万ドル以上に達する見込みと報じられた。

③ 華中の少雨

④ インド東部の高温

⑤ インド北部からパキスタンの少雨

⑥ トルコ周辺の高温

⑦ ヨーロッパの多雨

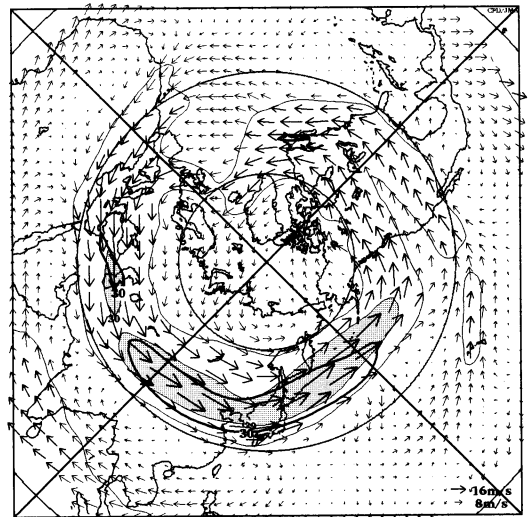
ユーゴスラビアでは洪水の被害が報じられた。

⑧ カナダ中部から米国西部の高温

⑨ 米国東部・南部の低温

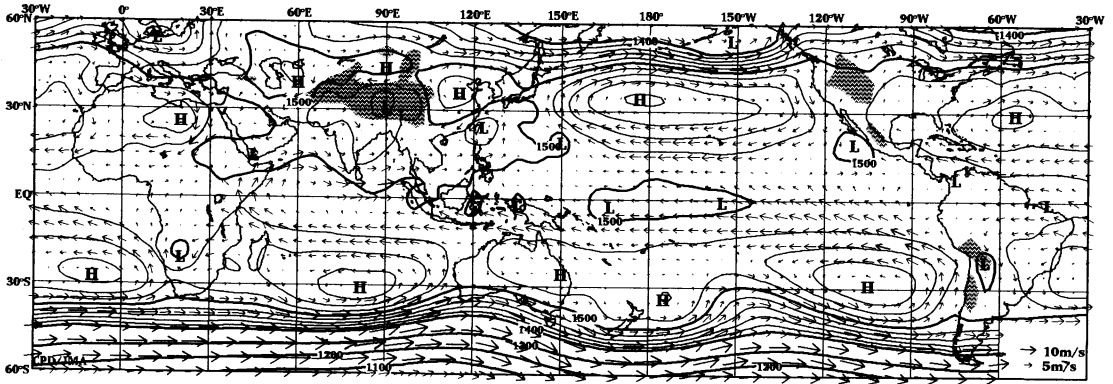
⑩ アルゼンチン北部の多雨

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 西潟政宣)

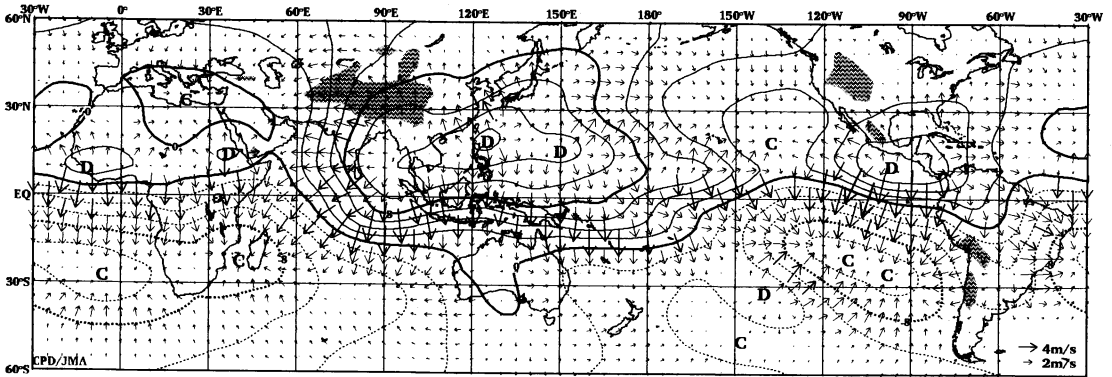


2001年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

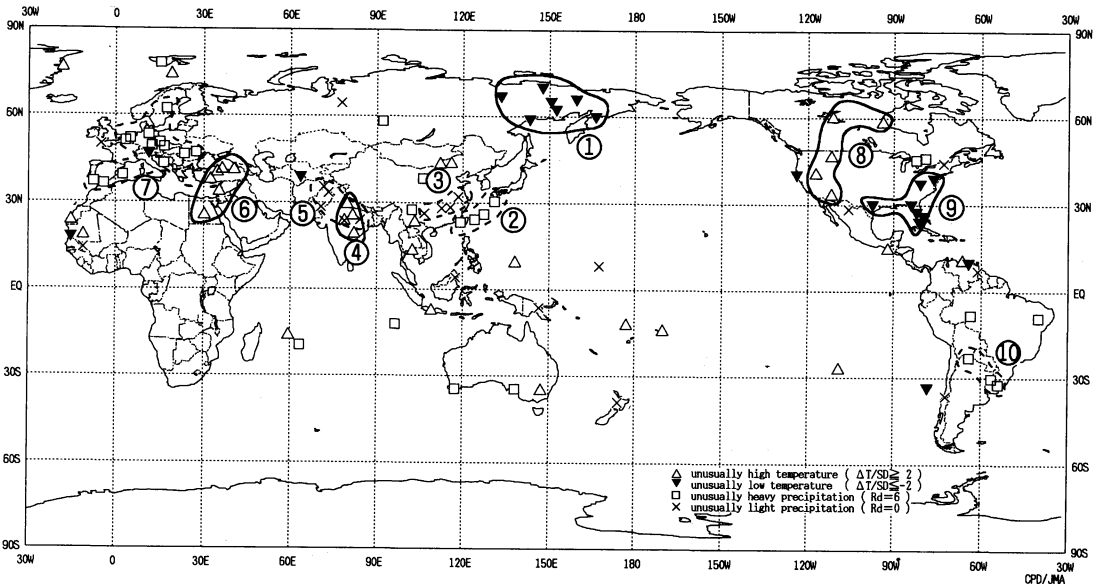
等値線間隔は15 m/s. 陰影部は30 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2001年9月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2001年9月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2001年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.